

首都大学東京の教養教育の 仕組みと見直しの方向性

大学教育センター長
山下 英明

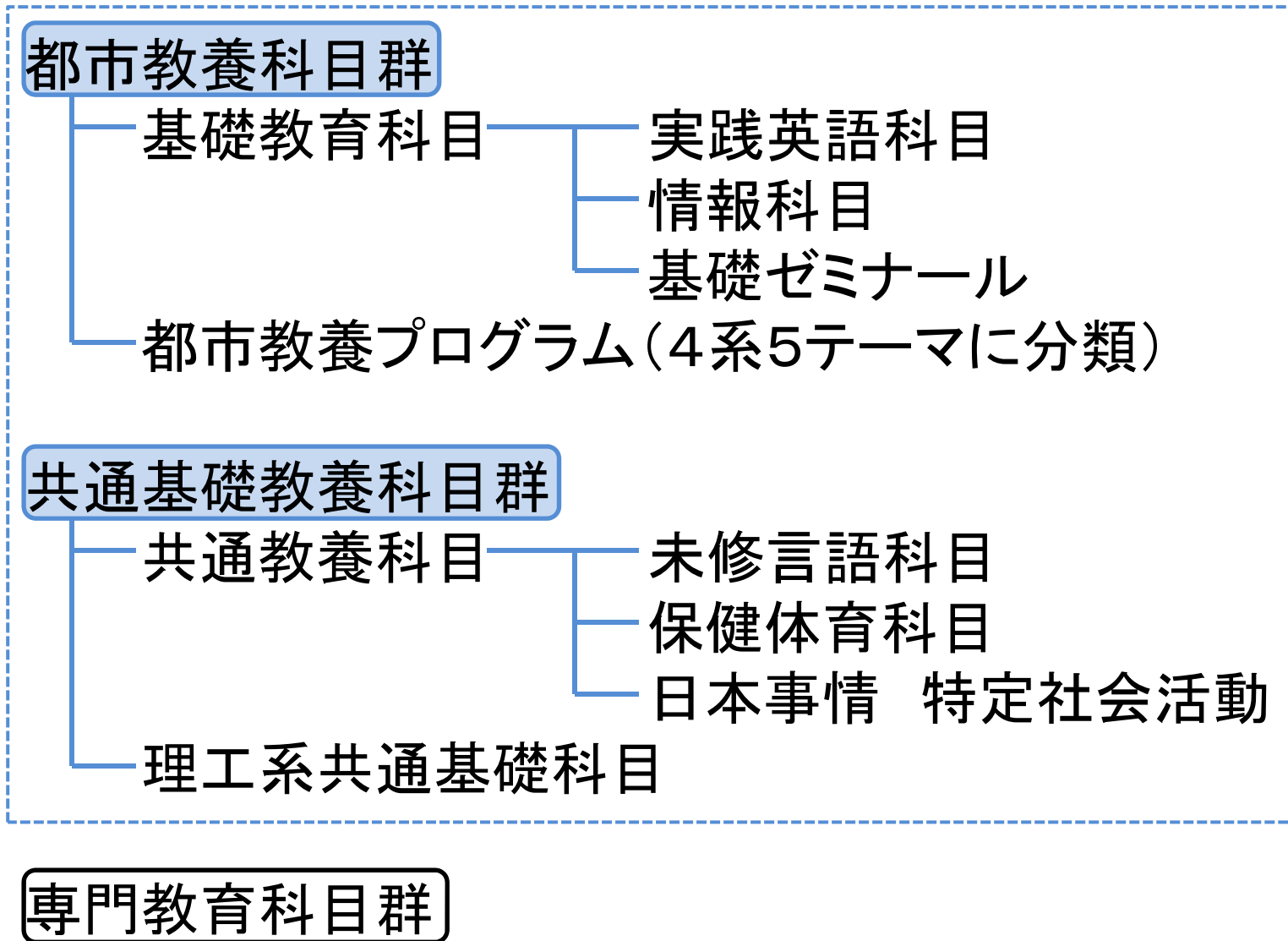
主な内容

1. 全学共通科目の再体系化
2. 学習成果の明確化
3. 単位制度の実質化

ワークショップのテーマ

授業科目の体系(現行)

全学共通科目



現行の体系の問題点

- ✓ 都市教養プログラムの目的「大都市の課題」に合致しない科目が多数存在
- ✓ 都市教養プログラムに幅広い知識や視野を養う科目と専門教育に接続する基礎的・導入的科目が混在し、難易度も様々
- ✓ 全学共通科目を必修か否かで分類
- ✓ 複雑かつ教育目的が分かりにくい名称
- ✓ 体系的に履修するのが難しい

授業科目の再体系化の基本方針

1. 全学共通科目を、目的・目標別に再編成

「基礎科目」大学での学習に必要な基礎的な能力を身につける

「教養科目」幅広い教養を身につけ、総合的問題思考力を育成

「基盤科目」各専門分野における基礎的、導入的知識・能力を修得

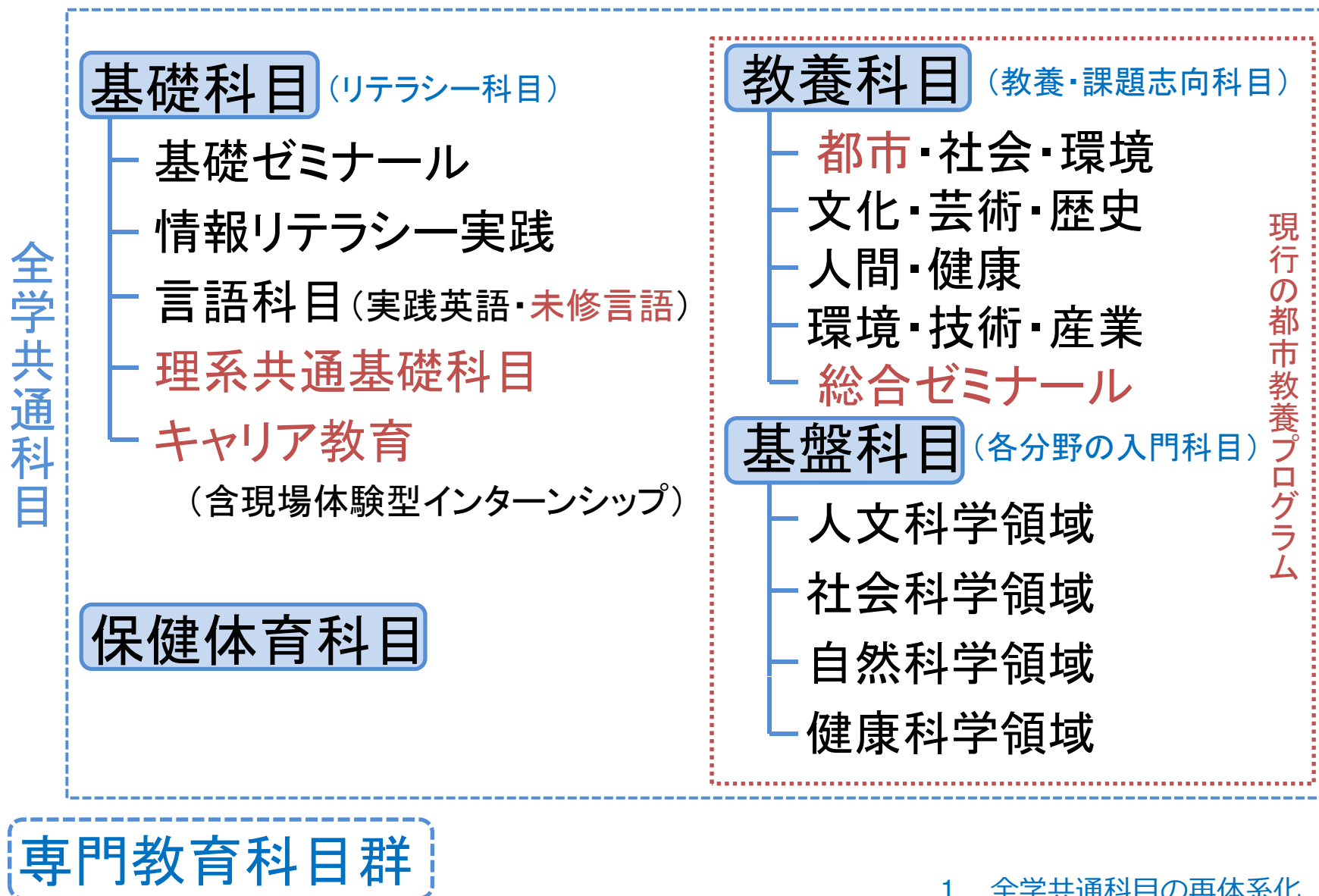
「保健体育科目」身体、身体運動に関する知識・技術を身につける

2. 「教養科目」に都市を共通のテーマとする科目群を編成

3. 学部後半で学部横断型「総合ゼミナール」

4. 体系的履修のため、必要に応じて履修順序を明示

授業科目の再体系化(案)



各基礎科目の検討課題

基礎ゼミ

成績評価基準の見直し, 授業担当者に対するFD

実践英語

能力別教育体制, 大学にふさわしい英語教育内容

情報リテラシー

学部・学系別教育内容, 情報倫理教育の拡充

理工共通基礎科目

クラスサイズの適正化, 理解度向上の施策

未修言語

履修者減少, 基本的考え方の確認

学習成果の明確化

「**学習成果**」 学習を通して何ができるようになるのか？

卒業要件毎 (Diploma Policy)

授業毎 (学習成果マトリックス)

に明確化

→ 学生, 保護者, 企業・社会の大学教育の意義を周知

— 学習成果を構成する要素 —

- ① 各分野の学習を通して得られる分野固有の知識・理解, 技術
- ② 各分野の学習を通して育成される**能力**

ものの見方・考え方など当該分野の学習を通して得られる分野固有の知識や理解の活用能力のうち, 当該分野以外においても普遍的に有用性を持つ能力

【各分野の学習を通して得られる知識・理解, 技術】

例

- a. 企業の戦略・組織に関する理論を学び、企業経営のあり方を模索する。
- b. 企業の経済活動を貨幣的に評価する理論や技法を習得する。
- c. システムを最適化、効率化する科学的手法を習得する。
- d. 金融に伴うリスクを分析する理論を習得する。
- e. 経済理論を体系的に学び、現実のデータで理論を検証する。
- f. 歴史、国際比較から経済活動を理解する。
- g. 経営学、経済学に必要な数学、統計学を習得する。

【各分野の学習を通して育成される能力】

例

- I 自らの考えや疑問を相手に分かり易く伝えるとともに、他者との議論を通して、協調しながら作業を行うことができる。
- II 情報通信技術を用いて、多様な情報を収集・分析し、効果的かつ正しく活用することができる。
- III 持っている知識・能力を総合的に活用しながら、多角的な視点からものごとを思考し、解決すべき問題の本質を見極め、それに取り組むことができる。
- IV 論理展開を的確に理解したり、自らの考えを論理的に組み立てたりすることができる。
- V 自ら解決すべき問題・課題を見つけ、それに取り組む姿勢を備えている。
- VI 高い倫理観を持って、社会に対し主体的に関与する責任を自覚している。
- VII 異なる文化的背景を持つ人・国・地域・社会等への理解を深める。

学習成果マトリックスのイメージ(1)

各分野を通して育成される転用可能な能力

		能力Ⅰ	能力Ⅱ	能力Ⅲ	能力Ⅳ	能力Ⅴ	能力Ⅵ	能力Ⅶ	能力Ⅷ
知識・理解・技術 各分野の学習を通して得られる	知識a	科目名		科目名	科目名		科目名	科目名	
	知識b		科目名	科目名	科目名				
	知識c								
	知識d								
	知識e								
	知識f								
	知識g								

学習成果マトリックスのイメージ(2)

各分野を通して育成される転用可能な能力

			能力 I	能力 II	能力 III	能力 IV	能力 V	能力 VI	能力 VII	能力 VIII
知識・理解・技術	各分野の学習を通して得られる	知識a	科目名		○	○		○		
		科目名			○				○	
	知識b	科目名		○	○	○				
	科目名							○	○	
	知識c									
	知識d									
知識e										
知識f										
知識g										

単位制度の実質化

1単位あたり45時間の学修が必要

準備学習・復習なし, 出席確認なし
期末試験のみで単位認定 } 授業外学習の不足

対策と課題

- シラバスの質の向上
- ミニテスト, 課題, 学修コンテンツの提供(教員負担)
- TA・SAの導入(予算確保)
- CAP制の導入(学習の自由と相反)
- GPAの活用(進級要件, 命令退学判定)

すべての授業で同時的・段階的实施が必要

FD委員会の活動(2010年度)

- FDセミナーの実施(2回)

 - 単位の実質化

 - 基礎・教養教育のさらなる改善と再構築にむけて

- 『クロスロード』発行

 - FD活動の交流と情報の共有

- 授業評価アンケート

 - 基礎ゼミ, 都市プロ, 実践英語, 理工系共通, 情報リテ

- 『別冊クロスロード』配布

 - 授業評価アンケート結果の周知

<http://www.comp.tmu.ac.jp/FD/>

授業評価アンケートの活用例

- 受講生および次年度受講生に公表
- 授業の改善点，学生への要望等を説明

改善点と要望（経営科学Ⅰ）

- 繰り返し説明，前の授業の復習
- 板書に移す時間を確保
- 時間外学修のための演習問題を配布
- その場で計算しても学生はついてこない
- 参考書に対する認識を改める
- 重要なことを判断し，自分でメモをとる訓練

ワークショップ

【テーマ：授業評価アンケートの有効な使い方】

教員の視点

真の授業改善に役立つための使い方

職員の視点

学生時代にどのようなことを聞いて欲しかったか
大学職員として授業改善に何ができるか

スケジュール

グループでの議論(25分)

休憩(10分)

全体での議論(20分)